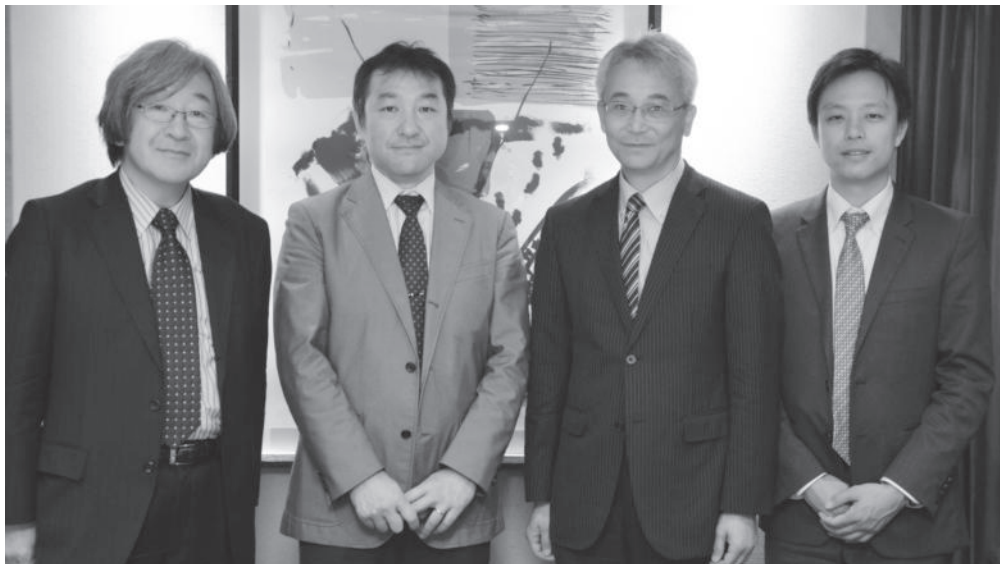


パーキンソン病における wearable monitoring technologies の有効性

われわれの生活において、もはや必需品といっても過言ではないスマートフォンなどの通信端末は、医療においても革新的な役割を担っている。映画の世界でしかみることのできなかったような時計や眼鏡の形をした端末（ウェアラブルデバイス）が、人の動きを検知し、記録するだけでなく、離れた場所にも情報を届け、分析して新たな知見につなげることが現実のものとなりつつある。今回の座談会では、ウェアラブルデバイスが、パーキンソン病診療においてどのように導入されようとしているのか、また導入までにどのような課題が残されているのかをご討議いただいた。



●ご司会

服部 信孝 先生

Nobutaka Hattori
順天堂大学大学院
医学研究科神経学 教授 /
順天堂大学大学院医学研究科
老人性疾患病態・治療研究
センター 副センター長

前田 哲也 先生

Tetsuya Maeda
岩手医科大学医学部内科学講座
神経内科・老年科分野 特任准教授

三苫 博 先生

Hiroshi Mitoma
東京医科大学
医学教育学講座 兼任教授

大山 彦光 先生

Genko Oyama
順天堂大学大学院
医学研究科神経学 准教授